



新しい年度へ

春の山並みに山桜が輝きを見せる中、本日、修了式と離任式を行いました。本年度の人事異動により、次の方々が本校を離れ、新しい方々が着任されます。

《転出》
 大嶋博之校長
 加藤先生 退職
 松島先生 退職
 最上先生 退職
 国見中へ
 片山先生 南有馬中へ
 藤井先生 相浦中へ
 水田先生(養教) 西有家中へ
 齊藤先生 加津佐中へ
 山本特支助教 退職
 高木学校支援員 口之津小へ

《転入》
 宮崎秀二校長 新補・西有家中から
 喜久先生 吾妻中から
 福田先生 国見中から
 白倉先生 布津中から
 近河先生 瑞穂中から
 酒井先生 新規採用
 下田先生 養教・新規採用
 臼井先生 有家中から
 本多先生 欠補講師

別れは寂しいものですが、それぞれの地で新しい出会いがあればと願っています。どうぞ、お元気で。



海老がなぜ、

祝いの席に振舞われるか

二年前、同じ題名のコラムを載せたことがあります(学校たより第十号)。あの頃は状況が違う今の心境に乗せて、もう一度取り上げたいと思います。



海老は、生きている間、常に脱皮し続け、古い自分の殻を捨て、日々成長し、一生涯「新た」になる。そんな海老の生き方に畏敬の念を抱いて、人生の節目となる祝いの席で人は食すとありました。卒業生が巣立ち、もうすぐ新入生が入学してきます。そして、教職員の人事異動。人が替わるだけでなく、授業も行事も生徒会活動も「新た」になりたい。そんな願いを次の句に込めて記します。

日に新た、日に新たならん 又、日に新たならん

生徒たちは、二年生や一年生という殻を捨て、異動される先生たちは、口中職員という殻を捨て、私は校長という殻を捨て、次のステージで「新た」になる道を歩む。みなさん、お達者で！

最後に、私が敬してやまない先達の句を残して終わります。

身はたとひ 武蔵の野辺に朽ちぬとも

留置まし大和魂

吉田松陰

《コラム 港町ブルース》

自己改革

「教育」の在り方を客観的に問い始めたのは平成十八年、教育行政の職に就いてからでした。あれから十八年、たどり着いた答は、教育が、人が行うものである以上「どのような教育を行うか」ということは大事ではあるけども「どのような人が行うか」ということの方が遥かに大事ということでした。



識見、情熱、夢、ロマン、志、眼力、知力、責任、慈愛、恕、冷静、純情、情愛

これらは、私が私淑する方のコラム「抜粋 長論/致島抄その三二/山崎滋夫」にあった言葉です。自分はそのような「人」であるか。校長の職を離れて、新たな環境の中で、人として、この姿を追い求めていきたいと思えます。

《 主な行事予定 (令和7年度) 》

《4月》

- 7日(月) 着任式、始業式(給食あり)
- 8日(火) 入学式(午前、1年生給食なし)
1年生育友会入会式
- 11日(金) 歓迎行事(要弁当)
- 15日(火) 全国学力調査(3年生、理)
- 17日(木) 全国学力調査(3年生、国数)
県学力調査(2年生、国・数)
- 18日(金) 県学力調査(3年生、英)
- 22日(火) 育友会総会

《5月》

- 18日(日) 体育大会
- 22日(木) 実力テスト(3年生)
- 28日(水) 生徒総会

《6月》

- 7日(土) 市中総体球技・武道大会
~8日(日)
- 18日(水) 市中総体陸上競技大会

《心に響いた言葉》 「メディアコントロールができるようになって、気持ちよく走れるようになりました！」
 風雨の悪いコンディションの中、目標タイムを切って走り抜けた福田君の言葉から。彼の活躍を心から期待しています！



学校教育目標 「人として、社会の形成者として、日々新たに求めて学び、志を立て、心豊かにたくましく生きる生徒の育成」。



令和六年度の歩み

本年度の生徒たちの活躍を、ほんの一部ではありますが、まとめてみました。どうぞ御覧ください。



4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

「生徒たち」

ふるさと文化・歴史・人物——口之津中教育の視点から

今までに多くの学校に赴任し、仕事から、さらにたくさんさんの学校を訪問して、そこに通う生徒たちを見てきました。どの学校にも「全体的な雰囲気」というものがありました。それぞれにその土地の歴史や文化、自然環境があり、人々（親や地域の人々）の営みが違うので、当たり前と言えども、前なのですが、気質というものは、確かにあります。

そこで口之津中学校の生徒たち。私が受けた印象（校長面談等での観察からは、「センスの良さ」や「向上心」、そして「品の良さ」です。これらはきつと、古くは南蛮貿易、近代では外国航路で世界を見てきた先代から受け継いだものだろうと思います。そして、豊かな自然環境が穏やかな性格を育んだ、そう思うのです。このようなまちに生まれて育ったことを誇りに思い、ふるさとを大切にしたい、これからの人生を歩んでほしいと願っています。彼らに出会って良かった。ありがとうございます。



全校合唱で「ふるさと」を歌う生徒たち

【お礼：学校だより最終号】

この学校だよりは、月に一回発行してきました。校長として想うこと、願うことを、そこはかとなく書き綴ってきましたが、今号をもって（本号）最終号となります。今、の話題のほか、「これから」の課題も積極的に載せてきました。今後は、後進に期待し、託すのみとなりましたが、よりよい学校になるよう草葉の陰から「祈りたい」と思います。

これまでの御愛読、ありがとうございます。

